

平成二十六年 春季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「春」

期間 平成二十六年二月一日～平成二十六年四月末

投句数 一、五五〇句

特選三句

天

ちよつと寄る日永の句碑や観世音

愛知県西尾市 村松 五灰子

地

露座仏の肩に解けゆく春の雪

東京都目黒区 尾高 好子

人

剥落といふ年月や寺うらら

岡山県岡山市東区 伴 明子

入選句

一般の部

鎌倉や蚤ほがらかに若布干す

東京都武蔵野市

池田 宏治

梅ヶ香に迷いつつ踏む小道かな

神奈川県横須賀市

岩澤 由美子

四方の山花の浄土となりけり

神奈川県鎌倉市

大島 幸子

墨うすき天井の龍堂遅日

東京都大田区

荻野 操子

碧天に紅梅笑みを放ちけり

神奈川県鎌倉市

片岡 マサ

うららかやここにも虚子の筆の跡

神奈川県横浜市戸塚区

高橋 央尚

江の島を望む山路や木の芽風

東京都町田市

竹内 弘

頼朝の墓守のごと藪椿

東京都世田谷区

竹尾 紀子

土牢の深き闇より冴返る

東京都杉並区

田中 雅子

江ノ電の窓に広がる春の海

神奈川県鎌倉市

土山 忠滋

鎌倉へ各駅停車花の昼

愛媛県四国中央市

豊田 みゆき

春一番寺の風鐸鳴り止まず

神奈川県鎌倉市

長尾 愛

晩年にためらひは無し木の芽風

神奈川県横浜市南区

中村 重次郎

寿福寺の参道長し木の芽風

神奈川県三浦市

秦 孝浩

小坪なる女漁師の栄螺買ふ

埼玉県狭山市

古谷 彰宏

由比ヶ浜引く波跡にさくら貝

神奈川県川崎市高津区

松島 弘

大仏の遠きまなざし海は春

東京都杉並区

三島 伸一

長谷寺の薨の起伏花万朶

茨城県竜ヶ崎市

村田 實

春の雪アンドウ・トロワと降りにけり

神奈川県逗子市

森澤 謙二郎

この道は花の極楽切通し

神奈川県横浜市青葉区

山下 省三

(順不同)

入選句

子どもの部

おだやかに風がささやき春を知る

神奈川県中郡

原

真優

ウグイスがないているよねやまのなか

東京都中野区

こんの

あおい

春が来て動物たちも目をさます

神奈川県川崎市中原区

神山

和香

そよ風にふかれて春がやって来た

東京都世田谷区

國田

愛菜

さくら咲くだいぶつさまはでっかいな

熊本県熊本市東区

島津

里咲

六年生卒業しちやって淋しいな

神奈川県川崎市中原区

香川

健

長谷寺のコイも見あげる紅葉かな

埼玉県南埼玉郡

木坂

慧

だいぶつもえんそくいきたいだろうな

千葉県四街道市

中村

兼人

いちのとりいくぐれば春がおでむかえ

神奈川県横浜市栄区

北川

結唯

江ノ電の音で目覚めたふきのとう

神奈川県横浜市栄区

北川

真衣

(順不同)